SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム
社会的孤立・孤独の予防と
多様な社会的ネットワークの構築

社会的孤立・孤独の何が問題なのか

浦　光博
（プログラム総括・追手門学院大学）

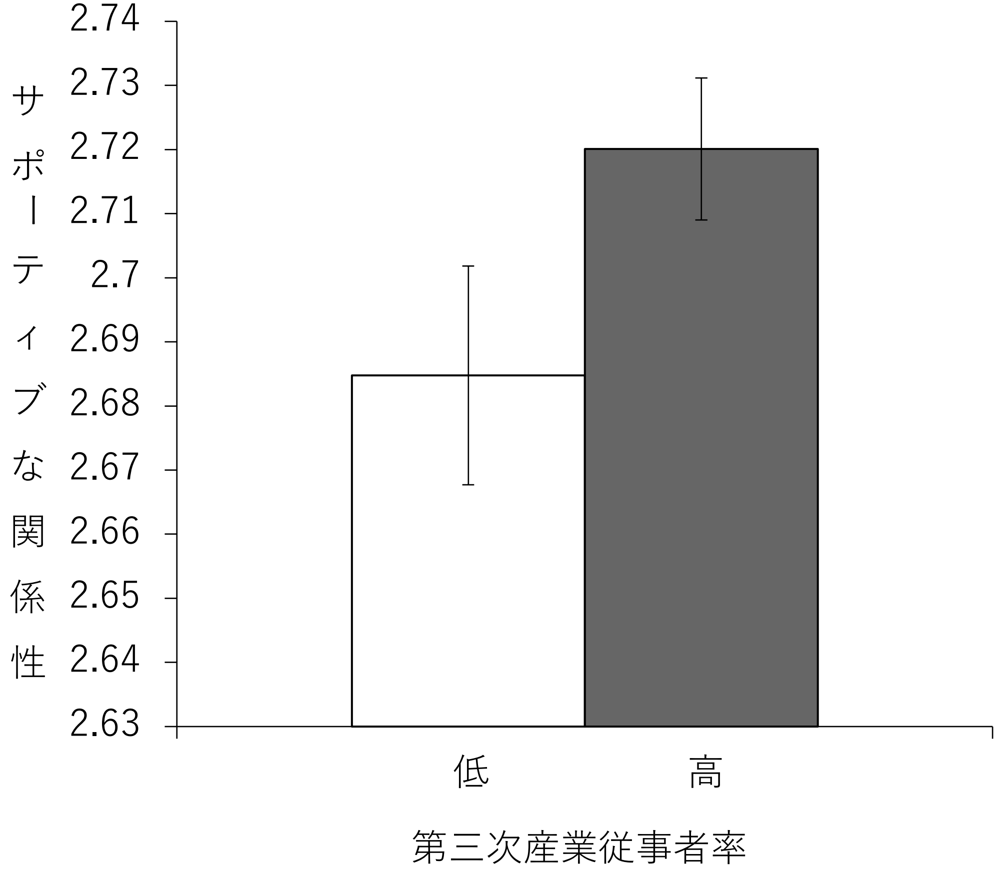
多様な社会的ネットワークの構築

- 仕組みづくりというと、「さあみなさん、孤独な人、孤立している人を助けましょう」「孤独な人、孤立している人はもっと積極的に人の輪の中に入りましょう」となりがち
- これらの必要性は否定しない
- しかし、このような仕組みはともすると人と人とのつながりが強すぎて息苦しい関係をつくってしまうことになる
- 自然と孤立・孤独に関心が向き、人と人とがゆるやかにつながり合える仕組み作りはできないものか
  - 多様な社会的ネットワークの構築
  - 社会的孤立・孤独の０次予防

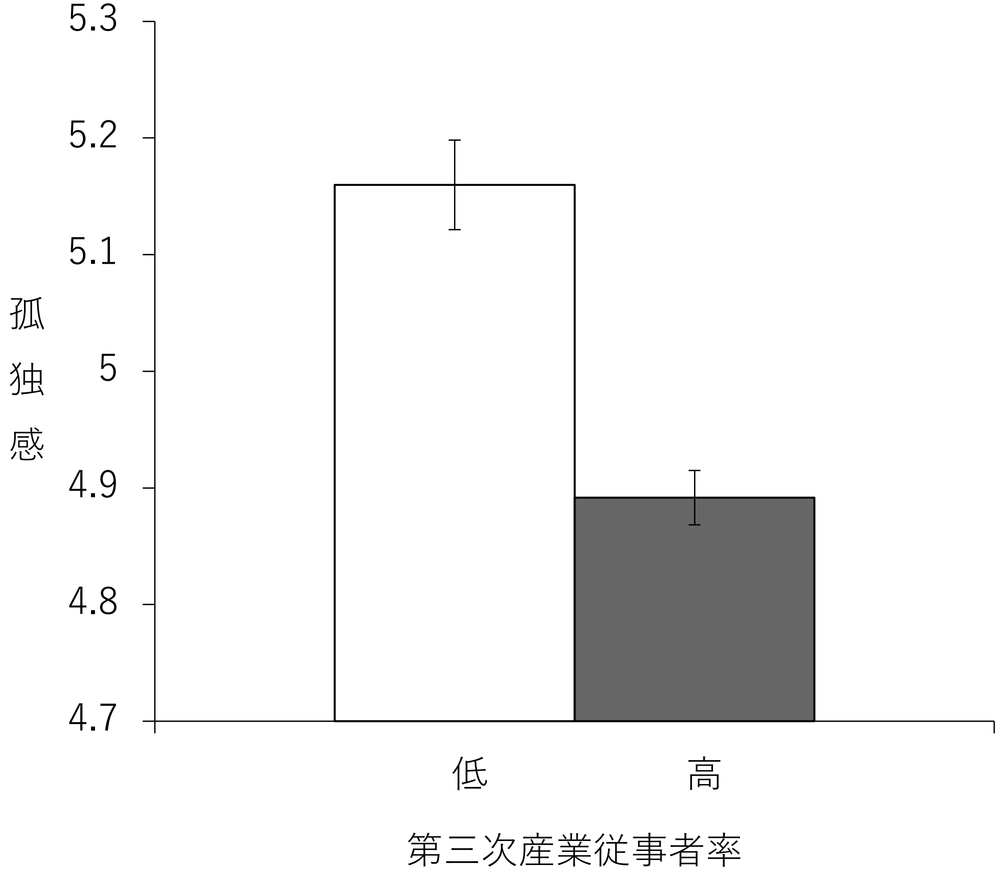
探索的な試み

- 孤立・孤独に関連するマクロ要因の探索的な検討
- 2023年データを用いて、各都道府県の孤立・孤独の平均値を算出し、都道府県の種々の統計指標との関連を検討した

- 第三次産業従事者率の高い都道府県に住む人びとはそれの低い都道府県に住む人びとよりも孤立の程度が低く、孤独感の程度も低い
  - 第一次産業（農林水産業）、第二次産業（生産加工業）以外の産業
    - 小売業、サービス業、情報通信業など多岐にわたる
    - 労働集約性が高い
      - 産業の主役が労働者
      - 資本集約性の高い第二次産業では、産業の主役は資本



2.74
2.73
2.72
2.71
2.7
2.69
2.68
2.67
2.66
2.65
2.64
2.63
サポーティブな関係性
低
高
第三次産業従事者率



5.3
5.2
5.1
5
4.9
4.8
4.7
孤独感
低
高
第三次産業従事者率

第三次産業従事者率の高い都道府県の特徴

- 転職率、完全失業率が高く、ジニ係数が高い
  - 社会の流動性が高く、経済格差が大きい
    - 社会が不安定になり、孤立や孤独が増えても不思議ではない
- 一人あたり社会福祉費は高く、生活保護費割合も高い
  - 社会保障制度への依存度が高い
    - 社会の不安定さによるダメージが社会保障制度によって緩和されている
- 他者の孤立への関心が高い
- 孤立と孤独の関連が弱い

第三次産業従事者率の高い都道府県の特徴

- 想定される仮説
  - 社会の流動性が高まったり、格差が多くなったりすることで不安定さが増したとしても、社会保障制度が機能することで個人へのダメージが緩和される
  - 労働集約型産業が主体の社会であるため個が強調されることで、孤立が見えやすくなる
  - 結果として
  - 個人的にサポート資源をどれくらい持っているか（孤立の程度）に関わらず、周囲からの関心が向きやすく、孤独を感じる人が少なくなる

社会的孤立・孤独を生まない社会とは

- 第三次産業従事者の割合は増加を続けている（2021年は約74%、第二次産業従事者は23%）
  - これからもこの傾向は続く
- さらに知識集約型産業も増加の一途
  - 社会の不安定さのダメージを緩和するためには、社会保障制度が適切に機能することが必須
- 個がさらに強調されることで孤立が見えやすくなり、人びとの孤立に対する関心はさらに高まる可能性がある
- 個別的なつながりの必要性を強調するのではなく
  - これをすると、息苦しい社会に後戻りする可能性
- 見知らぬ他者同士でも気軽に声を掛け合える社会へ